さかまた

No.96

2021.2

50 years history

鴨川シーワールド 50年史年表

1969年

- **11月12日** アマゾンカワイルカ2頭搬入、公開（日本初）❶
- **12月** 鴨川シーワールド建設開始

1970年

- **2月・10月** ガンジスカワイルカ計5頭搬入（東京大学ガンジスカワイルカ学術調査隊参加）
- **4月23日~** 東京湾でシャチの捕獲に挑戦（約10日間）
- **9月4日** アメリカ、シアトルよりシャチ2頭搬入（日本初）❷
- **10月1日** 鴨川シーワールド開業❸

1971年

- **2月17日** スジイルカ保護（千葉県館山市）
- **3月2日** 日本動物園水族館協会に加盟
- **7月** イルカショーでイルカの「サマーソルト」を公開

1972年

- **1月~2月** 東京大学ラプラタカワイルカ学術調査隊に参加
- **3月** 機関誌「さかまた」創刊
- **5月11日** フンボルトペンギンの繁殖に成功

1973年

- **3月24日** 皇太子ご家族ご来館
- **3月** 「動物友の会」（現 ドルフィンドリームクラブ）発足
- **6月14日** ハマクマノミの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞*1）❹
- **8月1日~20日** 第1回サマースクール開講

1974年

- **3月** 沖縄国際海洋博覧会政府出展水族館の飼育展示業務委託（~1976年1月）

1976年

- **1月19日** オーストラリアアシカ3頭搬入、公開❺
- **9月10日** バンドウイルカの繁殖に成功
- **9月19日** ベルーガ3頭搬入、10月1日公開（日本初）❻

1977年

- **5月11日** イバラタツの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞*1）❼
- **7月** イルカショーで「クジラのロデオ」公開
- **10月10日** 入園者500万人達成

1978年

- **8月17日** マンボウ「ナンナン」飼育世界記録達成（426日）

1979年

- **2月** アンコウの周年飼育に成功（4月より公開）
- **4月** 「なかよし広場」（アシカ・アザラシ類、ペンギン類飼育施設）オープン
- **5月** 「マスコットコーナー」（現 マンボウ水槽）公開、マンボウの常設展示開始

1980年

- **2月11日** アイスランドよりシャチ2頭搬入（2回目）
- **8月17日** 入園者700万人達成

1981年

- **6月14日** カリフォルニアアシカの繁殖に成功❽
- **7月** シャチの「ルーピングキック」公開
- **8月15日** マンボウ「ノンキー」飼育世界記録達成（971日）
- **8月31日** オーストラリアアシカの繁殖に成功（世界初、繁殖賞受賞*1）
- **11月25日~** 第23次南極観測隊に参加❾

1982年

- **8月3日** イチョウハクジラ保護（千葉県富津市）

1983年

- **6月6日** カリフォルニアアシカの人工哺育に成功
- **10月10日** 入園者1,000万人達成❿
- **12月8日** セイウチ2頭搬入

1984年

- **2月22日** 昭和天皇ご来訪
- **10月4日** キタゾウアザラシ2頭搬入

1985年

- **10月4日** マンボウの「ノロン」と「クーキー」が飼育世界記録達成（1,380日）
- **10月** 「ディスカバリーガイダンス」開始
- **11月4日** アイスランドよりシャチ2頭搬入（3回目）

1986年

- **3月19日** コマッコウ保護（千葉県富津市）
- **5月10日** フンボルトペンギンの人工ふ化・育すうに成功
- **10月2日** アラスカよりラッコ3頭搬入⓫

1987年

- **3月21日** 「オーシャンスタジアム」、レストランオーシャン」オープン、新シャチショー公開⓬

1988年

- **3月29日** アイスランドよりシャチ4頭搬入（4回目）
- **4月15日** タテゴトアザラシ公開（日本初）
- **7月24日** カナダよりベルーガ搬入（2回目）
- **10月10日** 国際海洋生物研究所設立

1989年

- **3月11日** 第1回国際海洋生物研究所 国際シンポジウム開催（1998年まで毎年開催）⓭
- **5月5日** 入園者1,500万人達成
- **12月26日** 天然記念物ミヤコタナゴの繁殖に成功

1990年

- **3月5日** マンボウ「クーキー」飼育世界記録達成（2,993日）⓮
- **3月21日** 極地ペンギン展示施設「ペンギンズネイチャー」オープン
- **6月** デザインキャラクター「オルタン」発表
- **10月24日** ソビエト連邦よりベルーガ3頭搬入
- **11月26日** 新島で保護されたキタゾウアザラシを搬入

1991年

- **11月21日** アルビノのアカエイを搬入（千葉県館山市）

1992年

- **7月** アシカショーで「笑うアシカ」公開⓯

1993年

- **1月14日** ラッコの繁殖に成功
- **4月8日** キタオットセイ保護（千葉県勝浦市）
- **4月29日** カスピカイアザラシ搬入（日本初）
- **5月21日** 勝浦市で保護したキタオットセイを鴨川沖で放流
- **7月** 動物ふれあい体験プログラム「ひと夏の体験」開始⓰
- **8月7日** 入園者2,000万人達成

1994年

- 6月6日 セイウチの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞*1）
- 7月31日 ペリカンの園内散歩ほか「アニマ・アウト・ガイド」開始
- 9月13日 オウサマペンギンの繁殖に成功

1995年

- 1月2日 バンドウイルカ「スリム」国内飼育記録達成（8,467日）
- 11月23日 サンアルピナ鹿島槍スキー場（長野県大町市）へ親善大使としてジェンツーペンギンとオウサマペンギンを派遣

1996年

- 3月22日 秋篠宮殿下ご一家ご来訪
- 7月30日 ハセイルカ保護（千葉県富山町）
- 12月21日 「エコアクアローム」オープン

1997年

- 7月19日 夜の水族館探検「ナイトアドベンチャー」開始

1998年

- 1月11日 シャチの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞*1）⑰
- 7月25日 「ロッキーワールド」オープン⑱
- 8月10日 入園者2,500万人達成

⑰

⑱

1999年

- 4月4日 バンドウイルカ「スリム」飼育10,000日達成（国内飼育記録更新中）

2000年

- 7月22日 「トロピカルアイランド」オープン⑲

⑲

2001年

- 1月26日 ネズミイルカ保護（千葉県富山町）
- 4月 「ウミガメの浜」オープン⑳
- 6月 イルカショーで「イルカのフリスビー」公開

⑳

2002年

- 6月 東条海岸におけるアカウミガメの保護、調査活動開始

2003年

- 4月25日 カスピカイアザラシの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞*1）㉑
- 7月17日 人工授精によるバンドウイルカの繁殖に成功（日本初、繁殖賞*1ならびに古賀賞受賞*2）
- 7月 深海生物展示水槽「外房の海・鴨川海底谷」公開

㉑

2004年

- 3月9日 鴨川シーワールド前の砂浜（東条海岸）にゴマフアザラシ「カモちゃん」出現
- 8月20日 入園者3,000万人達成

2005年

- 4月9日 アメリカ、モントレーベイ水族館との共同研究としてマンボウの標識放流実施
- 5月 クサフグの産卵調査開始
- 10月23日 ノコギリザメの出産を確認

2006年

- 2月10日 シャチ保護（千葉県御宿町）
- 3月 鴨川シーワールド初のビオトープ「メダカの小川」オープン
- 5月3日 カマイルカの繁殖に成功
- 12月4日 埼玉県川越市で保護されたキタオットセイ「しんちゃん」を放流のため上野動物園より受入れ

2007年

- 3月8日 キタオットセイ「しんちゃん」を銚子沖で放流

2008年

- 3月25日 ミナミバンドウイルカの衛星標識放流実施㉒
- 8月9日 エトピリカの繁殖に成功
- 10月13日 シャチの累代繁殖（飼育3世）に成功（日本初、繁殖賞受賞*1）㉓

2009年

- 5月 研究発表「座礁したコマッコウの保護と飼育」に対し技術研究表彰*3

㉒

㉓

2010年

- 1月10日 ワモンアザラシ保護（千葉県いすみ市）
- 3月22日 入園者3,500万人達成
- 7月10日 クラゲ展示施設「Jewelly Corner－海の宝石・クラゲー」オープン

2011年

- 3月16・17日 東日本大震災で被災したアクアマリンふくしまから飼育動物緊急輸送
- 4月7日 震災により緊急避難していたゴマフアザラシが出産
- 4月 絶滅危惧種シャープゲンゴロウモドキの系統保存開始
- 6月26日 震災により緊急避難していたゴマフアザラシが親子でアクアマリンふくしまへ帰還
- 12月13日 名古屋港水族館へシャチ３頭移送㉔

㉔

2012年

- 12月11日 バンドウイルカ「スリム」飼育15,000日達成（国内飼育記録更新中）
- 3月21日 震災により緊急避難していたトドがアクアマリンふくしまへ帰還

2013年

- 6月23日 バンドウイルカの累代繁殖（飼育3世）に成功㉕
- 8月14日 ジェンツーペンギンの繁殖に成功
- 12月 絶滅危惧種ミヤコタナゴの系統保存開始

㉕

2014年

- 2月17日 ワモンアザラシの繁殖に成功
- 3月1日 トロピカルアイランド「Coral Message」と「レストランオーシャン」リニューアル㉖
- 7月 シャチの水かけ「サマースプラッシュ」開始
- 8月 ベルーガ「ナック」の人の音声模倣能力が学術誌に掲載（世界初）
- 10月 ニホンイシガメの保全活動開始
- 11月4日 トド保護（千葉県山武市）

㉖

2015年

- 2月 鴨川市民DAY開始
- 3月14日 ロッキーワールド地下に「ピリカの森」オープン
- 7月16日 クラゲ展示新施設「Kurage Life」オープン

2016年

- 3月1日 オイランヨウジの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞*1）㉗
- 5月12日 ゴマフアザラシ保護（千葉県一宮町）
- 5月17日 コブダイの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞*1）㉘

㉗

㉘

2017年

- 5月22日 メガマウスザメ収容（千葉県館山市）
- 6月1日 シャープゲンゴロウモドキの保全活動に対し千葉県より環境功労者知事感謝状を授与

2018年

- 3月16日 「エコアクアローム」、「マリンシアター」リニューアルオープン㉙
- 12月7日 メガマウスザメの全身骨格標本公開（世界初）
- 9月8日 人工授精によるオウサマペンギンの繁殖に成功（世界初）㉚

㉙

㉚

2019年

- 4月～5月 シャープゲンゴロウモドキの生息地への再導入実施
- 5月29日 人工授精によるカマイルカの繁殖（日本初）ならびに人工哺育（世界初）に成功

＊1　繁殖賞：（公社）日本動物園水族館協会の加入園館において、飼育動物の繁殖に成功し、かつ、それがわが国の動物園水族館で最初であったときに、規定にもとづいて授与される賞。
＊2　古賀賞：飼育下において繁殖させることが困難で、世界的にも例の少ない種や、飼育管理において独創的な工夫が認められた繁殖などに対して贈られる賞。上野動物園初園長である古賀忠道博士の業績を記念して制定。
＊3　技術研究表彰：動物園水族館事業の発展に特に寄与する優れた研究発表に対授与される賞。

MOLA MOLA
モラモラ

巣立ちをむかえたオウサマペンギン

昨年9月に誕生したオウサマペンギンのヒナが、6月30日に無事に巣立ちました。自然界では親に頼らずに自力でエサの魚を捕まえることができるまでになった時が巣立ちですが、当館ではヒナ特有の茶色い幼綿羽がすべて成鳥の羽毛に抜けかわり、エサを捕まえることはないものの、遊泳可能となれば晴れて巣立ちとしています。若鳥は巣立ち後もしばらくのあいだ親鳥の近くにいましたが、すぐに群れの中にとけこんで自立しています。エサの時間にはどの個体よりもはやく係員に近寄り、アジやシシャモを1日に2kgほど食べています。くちばしのオレンジ色やのど元の黄色の羽毛は成長するにつれ濃い色へと変わります。

海獣展示三課　重原 亜紗美
Asami Shigehara

ホトケドジョウの子ども

ホトケドジョウは、本州と四国東部の水田や流れのゆるやかな河川に生息している日本固有種で、体長6cmほどになります。近年、護岸工事などの開発により生息環境が悪化したことで生息数が激減していて、環境省のレッドリストでは絶滅危惧IB類(EN)(近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)に指定されています。2018年から本格的な保全活動を開始し、2年が経過した今年5月31日、展示水そうでふ化した体長5mmほどの稚魚をはじめて確認しました。稚魚はプランクトンや人工餌料などを食べて順調に成長し、現在では50尾が体長5cmほどになりました。ホトケドジョウの繁殖に成功したことによって、鴨川シーワールドの保全活動がまた一歩前進しました。

開発展示課　森 一行
Kazuyuki Mori

エトピリカのヒナ

8月11日にエトピリカがふ化しました。ふ化直後の体重は50gほどで、手のひらに収まるほど小さく、ヒナ特有の綿羽と呼ばれるやわらかい羽毛におおわれた姿をしています。親鳥が与えるエサに加えて、イカナゴやシシャモなどの切り身を係員からも与え順調に成長しました。ふ化から60日ほどで巣立ちをむかえた頃には体重が700gになり、綿羽は成鳥と同じ羽毛に抜けかわりました。体が小さなあいだは親鳥に見守られながら巣内で過ごしていましたが、今では他のエトピリカと同様に自由にプールを泳いでいます。くちばしはまだ小さくくすんだ色をしていて、立派な成鳥の姿になるにはもう少し時間がかかります。

海獣展示三課　松野 育美
Ikumi Matsuno

開業50周年記念特別レクチャー

2020年10月1日の鴨川シーワールド開業50周年にちなみ、10月の週末ごとに特別レクチャーを開催しました。「50年のあゆみ」、「シャチものしり講座」、「ウミガメの保護活動」、「オウサマペンギンの子育て」に、今回新たに「カマイルカの人工哺乳」を加え、50年の歴史を振り返る内容となりました。過去の映像や写真を見ると、自身で目にしたことがない動物や展示施設の存在に気付かされ、あらためて50年の重みを感じます。みなさまの思い出の鴨川シーワールドはどんな姿でしょうか?これからも動物とみなさまと共に歴史を積み重ねていけるよう、鴨川シーワールドはより愛される水族館を目指し、新たな驚きや感動を提供し続けます。

マーケティング室　杉本 夏子
Natsuko Sugimoto

シャチの「マギー」

▲ ベリーブローで水面へむかう「マギー」

オーシャンスタジアムの大勢の観客を前にステージに立ったまま何もできずにただ時間が過ぎてゆく。シャチを担当していた頃に何度も経験したショーの光景です。この困った状況は1頭のメスのシャチによって引き起こされていました。それがマギーです。

マギーは1988年3月、年下のステラ、オスカーとともにアイスランドからやってきました。3頭はオスのビンゴと共に4頭の群として成長し、数年後ビンゴとマギーは成熟年齢をむかえました。野生のシャチの群が年長のメスを中心とした母系集団であることは知られていましたが、その生態が飼育下でどのような形で表れるかは想像できていませんでした。それを嫌というほど思い知ったのがショーだった、というわけです。何かの拍子でマギーが参加を止めると、とたんに残りのシャチたちの動きが止まってしまいエサすら口にしなくなるのでした。

こんな状況が続くようになり何か解決の手掛かりがないかと調べていくうち、トレーニングは科学的な原理に基づいた学問であることが解りました。海外ではすでに当たり前のように普及していて、この学問(行動科学)はイルカショーではじめて導入されたという歴史もふくめ、専門書を読んで学ぶうちにまさに目からウロコのようにしてショー中に起きていた問題を理解することができました。原因を知ったからといってすぐに問題が解決するほど甘くはありませんでしたが、うまくいかないショーに困り果て、とにかく何とかしたいという思いから行動科学の勉強に向かわせてくれたことは、トレーニングに関する考え方を前進させてくれただけでなく、飼育動物とのより良い関係を考えるようになったきっかけにもなっています。たくさんの苦労の思い出と共に未熟だった自分への反省の念もわいてきますが、マギーには感謝の気持ちでいっぱいです。

館長　勝俣 浩
Hiroshi Katsumata

▲ 1988年3月29日の搬入の様子。この後、「マギー」は長旅にもかかわらず支えるトレーナーを引きずって泳ぎだした。

Kamogawa Sea World NEWS

鴨川シーワールドニュース
2020/5/1▶2020/10/31

動物友の会月例会

2020年度の5月から10月までの
「動物友の会月例会」は、
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の
感染拡大防止対策のため中止

イベント

館内催事

6/1～30	鴨川市共同支援事業
	「ウエルカモキャンペーン」
	・鴨川市民に無料開放
7/23～8/31	エイとサメのタッチングプール

館内催事

10/1～	開業50周年催事
	・開業記念特別レクチャー（10/3～11/1）
	・50周年記念商品販売

レクチャー

5/8	令和2年うみがめに係わる研修会「アカウミガメの産卵と保護」
	主催：千葉海区漁業調整委員会　講師：吉村マネージャー（10名）
10/3、4	開業記念特別レクチャー
	「鴨川シーワールド50年のあゆみ」　2回実施（93名）
10/10、11	開業記念特別レクチャー
	「シャチものしり講座」　2回実施（80名）
10/17、18	開業記念特別レクチャー
	「ウミガメの保護活動」　2回実施（101名）
10/24、25	開業記念特別レクチャー
	「オウサマペンギンの子育て」　2回実施（90名）
10/31、11/1	開業記念特別レクチャー
	「カマイルカの人工哺乳」　2回実施（70名）

その他

9/23	秋の全国交通安全キャンペーン

表紙写真：シャチパフォーマンス（右上：オープン当初）

鴨川シーワールド
〒296-0041 千葉県鴨川市東町1464-18
TEL：04-7093-4803　FAX：04-7093-4829
http://www.kamogawa-seaworld.jp/
鴨川シーワールドは、グランビスタ ホテル＆リゾートが運営する施設です。